

東証一部上場へ

四畳  
半から

株式会社インターアクション  
代表取締役社長

木地英雄

クロスメディア・パブリッシング

## はじめに

記念すべき第一回近代オリンピックがギリシャ・アテネで開催されたのは今から122年前のことでした。

最後の競技種目となったマラソンで勝利の栄冠を勝ち取ったのは、なんと専門的な訓練などを受けたことのないルイスという無名の一青年でした。

全く次元は異なりますが、私も無名で極々平凡な青年であり、特段取り上げる特徴や能力は持ち合わせてはいませんが、漠然とはしているものの倒れてもまた倒れても、倒れるたびに私の心の中には希望がむくむくと頭を持ち上げてきていました。

今、ビジネスや生き方の理論はたくさん存在します。しかし本当に実践してめざした場所に到達できる人は多くありません。大部分が「こうなったらいいな」と思うだけで挑戦せずに終わってしまい、あきらめてしまいます。

なぜそんな結果になってしまうのか。

それは頭で理論を構築して計画を立ち上げたとしても、その通りにいくことはあり得ないと自らが予測し、しり込みしてしまうからです。計画に沿って進めても現実が伴うわけがないだろうとどこかで思うからです。漠然とした不安に突き当たったとき、世の中では目標をあきらめる人とあきらめない人の二通りに分かれます。

あきらめない人の共通点はただ一つ、「それでも行動すること」です。

想定外の事態が起こったとき必要なのは、何事にも動じない胆力と知恵です。現状と戦っていくには、経験と知識から培った知恵がものをいいます。ただ、何も行動を起こさないとこの種の知恵は身につきません。動いて課題に突き当たり、「困った、どうしよう」というときに初めて、「こうやって乗り越えよう」という知恵が出てきます。これが大変重要だと思います。

私はいわばさまざまな内外の状況から、追い詰められた形で行動せざるを得ないところからのスタートでした。しかし、後々振り返るとそれは勇気のない私に一步踏み

出させる勇気を出すことのできたまさに「天の時だった」と思います。

本書を読まれる人には大いなる志と不屈の希望を持ち、まず挑戦してほしい、挑戦する勇気を持つてほしいと願っています。読み終えた皆さんが新たな一歩を踏み出せるよう、若い方々に力強い後押しができれば、私にとってこれ以上の喜びはありません。

木地 英雄

はじめに

002

序 章 ずぶの素人が光学の世界へ

009

父を亡くしたとき、開拓の人生を覚悟

010

ずぶの素人からのスタート

015

紙一枚からの開発

019

常識を疑って原因を探す

023

コラム 当時携わった世の中に役立つ仕事①

026

第1章 独立への胎動

027

開発を生業にしたこと

028

出る杭は打たれても	035
バブル崩壊のなかでの起業	040
四畳半トタン屋根の中で心定めた原点、カスタマーファースト	044
コラム 当時携わった世の中に役立つ仕事②	050

## 第2章 基礎の構築と幸運

誠実に対応し、運の良さを拾っていく	052
態度や姿勢が必要とされる存在になる	055
まず土台となる基礎づくりから	063
最後まで面倒を見る、責任を持つ	068
みんなに楽しんでもらうのが、唯一の接待ルール	072
小さな会社の弱さを実感しながら成長への道を開く	078
開発から製造の内製化でブラックボックスをなくす	085
数度の「拡張移転」と成長	090
出資をサポートしてくれた友人のありがたみ	097
「一歩前へ」と決意を固めたマザーズ上場	103
コラム 当時携わった世の中に役立つ仕事③	108

### 第3章 負けじ魂をもう一度

マザーズ上場で4倍の初値	110
新しいチャレンジへ向け、社長退任	113
人に任せたことで巻き起こった大混乱	117
社長復帰と難問の乗り越え	123
身に染みてわかった上場の魔力	129
お互いに利害が生じて、詳しく説明する大切さ	133
リーマンショックだからこそ目標を立て、忍耐と逆転の道へ	138
いくつもの幸運な面白い話	142

### 第4章 東証一部へ

受け身ではなく、自ら前に進む	150
会社の成長と、その先にある東証一部	154
一部上場による外部環境の変化	159
最初のM&A戦略の失敗	163

## 第5章 息子から見た父・社長の背中／木地伸雄

過去の失敗から学んだM&Aと人生のあり方	167
沖縄での急性心筋梗塞	173
倒れたからこそ学べた、自分の役割	179
後継の育成が自然になされる	185
覚悟があるかで仕事の姿勢が変わる	189
誠実であれ	193
父が倒れた日	198
副社長から見た東証一部への挑戦	201
東証一部から学んだこと	206